



尾瀬ヶ原自然探究活動

平成25年7月13日(土)～15日(月)の2泊3日の日程で、1・2年生の希望者11名が尾瀬ヶ原自然探究活動を実施しました。探究活動は、

①自然や環境を自分の目で観察し、体全体で体験することにより、自然を理解し保全しようという心を育むこと、

②環境問題を考えるための知識や、科学的なものの考え方・技術を身につけ、自分自身の問題として積極的に関わっていこうとする探究心や行動力を育てること、

③本校が所在する栃木県日光戦場ヶ原周辺における自然探究と隣県の尾瀬ヶ原で、高層湿原の成立と歴史やその特殊性、人間の活動や野生動物による食害が環境にどのような変化をもたらすのかを比較し、奥日光地域の自然について幅広く探究することを目的に行われました。



(↑自然探究のようす)



(写真は左からビジターセンターでの研修の様子、山小屋でのミーティングの様子、鳩待峠付近での集合写真)

尾瀬は高層湿原である尾瀬ヶ原を中心とした福島・群馬・新潟三県にまたがる高原で、貴重な湿原植物や独特の生物を観察することができる場所として知られています。近辺には至仏山や燧ヶ岳などがあり、高山植物の宝庫となっています。2005年に湿原生態系としての価値が評価され、尾瀬はラムサール条約湿地として登録されました。2007年には国立公園に指定されています。尾瀬のような特殊で希少な環境では、人間の手によってもたらされたわずかな変化でも、全体に影響を及ぼしてしまいます。尾瀬の環境を保護するための原則は、現状を変更しないことです。湿原の中を歩くときは木道を外れないようにして裸地化を防ぐことや、特殊な生態系に影響を与えないように石鹸や洗剤を使わない、ゴミはすべて持ち帰る、汚水や排泄物は浄化したのちに外に運びだすなど、自然をまもるための具体的な取り組みを学び、実践することで貴重な自然環境を自分たちの手で守っていくのだという意識を持つことができました。

今年度の研修では、前年に観察された植物の写真をシートにまとめたものを携帯しながら自然探索を行いました。また、全体のグループを4つに分け、各グループに上級生を1名ずつリーダーとして迎えて探究活動を行いました。少人数のグループで動けたため、活動をスムーズに行うことが出来ました。2日目以降は天気が大雨となり、3日目は予定していた至仏山登山を断念せざるを得ませんでした。湿原のコースを拡大して探究活動を行い、豊かな自然を観察することが出来ました。

また、活動後のアンケート調査では、参加した生徒全員（100%）が「今回の探究活動は、自分のためになった」と回答し、「自然保全や環境問題に関心が増したと思う」、「機会があれば自然や環境の保全に取り組みたいと思う」と回答した生徒がそれぞれ約90%という結果となりました。今後もさらに生徒の探究心の向上につながるような実り多き活動となるよう、取り組んでいきます。

◇行程

7月13日（土）

7:30	11:00	11:30	12:30
学校出発	→ 三池駐車場到着（乗り合いバス乗り換え）	→ 沼山峠（昼食）	→ 大江湿原
14:30	17:00	19:00	21:00
→ 長蔵小屋到着	→ 尾瀬沼周辺を探究	→ 長蔵小屋（入浴・ミーティング・夕食・ビジターセンター研修・消灯）	

歩行距離 約 3.0 km

7月14日（日）

5:00	6:00	7:00	8:00	9:30	10:30	11:00
起床	朝食	宿出発	→ 沼尻	→ 見晴	→ 龍宮	→ 昼食
13:00	16:30	17:00	19:00	21:00		
→ 山の鼻小屋（入浴・夕食・ビジターセンター研修・ミーティング・消灯）						

歩行距離 約 11.0 km

7月15日（月）

5:00	6:00	7:30	9:30	10:00	11:30	12:00	13:30
起床	朝食	宿出発	→ ヨッピ橋	→ 龍宮	→ 山の鼻小屋	→ 昼食	→ 鳩待峠着
14:30	18:30						
鳩待峠出発 → 学校着							

歩行距離 約 10.0 km



↑ 3 日間で通ったルート（沼山峠～鳩待峠）

尾瀬で見られた花々

前年度にのみ観察されたもの（8 種類）

オオバミゾホオズキ	キバナノコマツメ	サンリンソウ
シナノキンバイ	ハクサンイチゲ	ホソバヒナウスユキソウ
ユキワリソウ	ヨツバシオガマ	

今年度にのみ観察された植物種（43 種類）

		
アカモノ	アブラガヤ	オオカサスゲ
		
オオバノヨツバムグラ	オオマルバノホロシ	オククルマムグラ
		
オニノヤガラ	カキツバタ	ガマズミ
		
キヌガサソウ	クモマニガナ	ケナツノタムラソウ



コケオトギリ



コケモモ



コバギボウシ



コミヤマカタバミ



コメツツジ



サラシナショウマ



サワフタギ



サンカヨウ



ジョウシュウオニアザミ



シラタマノキ



シロバナハナニガナ



ズミ



タニギキョウ



タムラソウ



チシマザサ



ツルコケモモ



ドクゼリ



ノアザミ



ハナニガナ



ハリブキ



ヒメサユリ



ヒメシャクナゲ



ミズチドリ



ミゾソバ



ミタケスゲ



ミツガシワ



ミヤマカラマツ



ミヤマシシウド



モミジカラマツ



ヤマドリゼンマイ



リュウキンカ

前年度と今年度の両方で観察された植物種（38 種類）

		
イカリソウ	イチヤクソウ	イワカガミ
		
ウラジロヨウラク	エンレイソウ	オオニガナ
		
オオレイジンソウ	オゼヌマタイゲキ	カラマツソウ
		
ギョウジャニンニク	キンコウカ	ギンリョウソウ



クロバナロウゲ



ゴゼンタチバナ



コバイケイソウ



サワラン



ショウジョウバカマ



ショウキラン



ズダヤクシュ



タテヤマリンドウ



クルマバスウ



チングルマ



ツクバネソウ



ツマトリソウ



トキシウ



ナガバノモウセンゴケ



ニッコウキスゲ



ネバリノギラン



ハクサンシャクナゲ



ハクサンチドリ



ヒオウギアヤメ



ヒツジグサ



マイヅルソウ



ミズバショウ



モウセンゴケ



ヤナギトラノオ



レンゲツツジ



ワタスゲ